

読者想定法によるノンフィクションの読書指導

足 立 幸 子

1. はじめに

戦後の国語科教育において、読むことの指導は読解指導と読書指導という二つの枠組みで行われてきた。しかし、教科書教材を集団で読み解く読解指導は様々な指導方法が開発されてきたのに対し、本や雑誌など世の中に流通する様々な媒体の読書材を生活の中で読んでいくことに焦点をあてる読書指導は、学級集団で一斉に扱にくいということもあり、あまり指導方法が開発されてこなかったと言える。しかし、情報社会・知識社会といわれる現代であって生活の中で読書を行って行くことは非常に重要であり、そのような能力を国語科教育の中で児童・生徒に身につけさせることが必要である。そのため、国語科教育における読書指導の方法の開発がより充実していかなければならない。

読書をしている時に用いる方法は、日常的な用語では「読み方」ということになるが、研究的には「読解方略」(reading strategies)と呼ばれている。海外では、読書指導の方法を開発するにあたって、読解方略に焦点をあて、読解方略の特徴を児童・生徒に示したり、読解方略を実際に児童・生徒に体験させたりすることによって読書指導の方法(strategies)としているものが数多くある。そのような読書指導の方法を、一定の形式で整理した方法集である書物も多く出版されている(Sarto, 1998; Wood and Harmon, 2001; Tierney and Readence, 2005; Tompkins, 2009 など)。それらの読書指導の方法は、思いつきの実践例ではなく多くの試行錯誤や実験・調査を繰り返していく中で改善され指導方法へと昇華したものであり、これらの方法集には開発の過程や精緻化していく過程を示した複数の研究論文が引用されている。本研究でもそれにならい、読書指導の方法を開発していきたい。

特に我が国の読書指導の方法開発において、必要であり未開拓なのは、ノンフィクションの読書指導である。そこで、本稿の目的は、ノンフィクションの読書指導の方法として、「読者想定法」という方法を開発することである。筆者は、2014年に第2回世界リテラシー・サミットで出会った米国の英語教育研究者 Jean Anne Clyde 氏と話し合い、読者を想定してその想定した読者の読者反応を想像しながらノンフィクションを読むという方法について着想を得たことを、前稿(足立, 2015)において示した。本稿はそれを受けて、この方法に「読者想定法」という名を付けて、指導手順や学習内容を検討するものである。そのために、大学生に模擬生徒役になってもらい、模擬授業の形式で「読者想定法」の授業を行い、学習者のワークシートを書いた上で話し合ったことを報告してもらうという調査を行う。本稿執筆の手順としては、まず読者想定法という読書指導の方法の構想を、“Reading Strategies and Practices”(Tierney and Readence, 2005)の形式(目的、原理、意図されている学習者、手順説明、意義と議論)で示す。その上で、調査について説明し、調査で得られたデータ(ワークシートの記述内容や話し合いの振り返りの内容)を検討して、この方法で意図している読書指導が行えるかどうか、また、方法をよりよくするためにはどのようにしたらよいかについて、考察を加えることとする。

2. 読者想定法という方法

(1) 目的 (Purpose)

読者想定法の目的は、現代社会においてノンフィクションを読むという行為がどのような行為なのか児童・生徒に気づかせる経験を与えることである。形骸化した説明的文章指導に代えて、情報社会・知識社会の現代にあってノンフィクションを読むということの意味と方略を学習させようとしている。

(2) 原理 (Rationale)

国語科教育の中で、読むことの指導論は、作者が何を伝えようとしてそのテキストを産出したのかをとらえようとする「作家論」、作者が何を意図したかとはともかくそのテキスト（作品）が何を表しているかとらえようとする「作品論」、作者や作品が何を伝えているかとはともかく読者がそのテキストから何を読み取るのかに重点を置く「読者論」の三者を軸にして推移してきた。この読者想定法は原理として「読者論」を基礎とするものである。読者論には、テキストを読む行為における読者の役割に着目するものと、読者が読む際の状況に着目するものがあるが、読者想定法は後者の原理を生かしている。どのような状況においてどのような立場の人がどのようなメディアを通してその読書材を読むかに焦点をあてている。

上述の読むことの指導論は、特に物語・小説などの文学（フィクション）を中心に発達してきた。ノンフィクションについては誰がどのような状況においても読む内容は同じと考えられ、読みの客観性が強調されてきた。しかし、ノンフィクションについては、「筆者想定法」など、筆者（作家）の認識や思想・書きぶりなどに着目する指導論が開発されてきている。読者想定法は、そのような作者の側に焦点を置く従来の指導法ではなく、ノンフィクションで読者の側に焦点を置く指導法である。

また、読者想定法は、書かれている内容だけではなく、読者が置かれている状況に注目するので、読者の既知知識や価値観との関係から読むという行為に着目する。このことから、批判的読み（OECDの国際学力調査PISAの読解力の枠組みでは熟考・評価にあたる）を行う読み方であると言える。

(3) 意図されている学習者 (Intended Audience)

小学校5年生以上の国語科授業でノンフィクションの読み方を学ぼうとする学習者を意図している。

(4) 手順説明 (Descriptions of the Procedures)

- ① ノンフィクションの読書材を、まずは、児童・生徒自身の立場で読み、感想を持つ。
- ② グループでどのような読者がその読書材を読むか、想定できる読者のリストを作る。
- ③ 対立した人物をグループの人数分選び、それぞれ一人ずつを担当することにする。担当する一人を「想定読者」として、プロフィール等を作る。
- ④ 想定読者の反応を書き込んでいく。
- ⑤ グループで想定読者のプロフィールと反応をシェアする。
- ⑥ 「想定読者」としての読書経験を振り返り、感想を書く。

(5) 意義と議論 (Cautions and Comments)

読者想定法の意義は、「原理」としても述べたように、ノンフィクションを読書材としながらも「読者論」に焦点をあてた読み方を実現できることにある。生の読者自身の読み方ではなく、想定した読者を扱うことで、多様な読みを体験したり、読むということの仕組みについて理解したりすることができる。また、情報社会・知識社会における読書について、メディア・リテラシーの観点を踏まえながら体験することができる。

しかし、読者想定法では、読者の既知知識の量・質や価値観によって、読み方が限定を受ける。想定した読者の立場で読者反応を書き出すことで、自分の知識不足を感じたり、もっと読みたいと多読への動機付けになったりすることがある。一方で既知知識の不足から、十分に読むことができなかつたり、誤解であったとしてもそれを修正することができなかつたりする場合がある。

3. 調査

(1) 調査の概要

調査の概要は次のとおりである。

- ① 日時・場所 平成27年10月11日 国立大学教育学部の講義室
- ② 対象 国立大学教育学部の学生2～4年生34名（4名班×6, 5名班×2）
- ③ 調査方法 下記のとおり
- ④ 材料 インターネット上の新聞記事2種
 - A 韓国と対立し「明治産業遺産」審議5日に延期 読売新聞 2015年7月5日0時11分
 - B 「サミット＝主要国首脳会議」の開催地、志摩市に決定「伊勢志摩サミット」
伊勢志摩経済新聞 2015年6月5日

材料について、説明を加える。調査に使用したのは上記の新聞記事2種であるが、学生には表1のように補足記事も含めて6種類の記事を、プリントアウトした状態で渡した。Aはア、Bはオにあたる。複数の記事を用意しておいたのは、インターネットの新聞記事を読む場合、前後の記事も含めて読むことが多くあるためである。また、記事の難易度や被験者である学生の背景知識によっては、別の記事にも差し替えた方が望ましいかもしれないと考えたためである。

表1 調査のために用意したインターネットの新聞記事及び補足記事とその出典

ア 韓国と対立し「明治産業遺産」審議5日に延期 2015年7月5日0時11分 読売新聞(YOMIURI ONLINE) 国際欄 http://www.yomiuri.co.jp/world/20150704-OYT1T50108.html (2015年7月8日アクセス)
イ 世界遺産決定 反射炉「夢がなかった」 2015年7月6日 読売新聞(YOMIURI ONLINE) 地域 静岡 ニュース http://www.yomiuri.co.jp/local/shizuoka/news/20150705-OYTNT50277.html?from=yartcl_popin (2015年7月8日アクセス)
ウ 産業革命遺産 祝賀に水差す韓国の政治工作 2015年7月8日1時37分 読売新聞(YOMIURI ONLINE) 社説 http://www.yomiuri.co.jp/editorial/20150707-OYT1T50185.html?from=ytop_ylist (2015年7月8日アクセス)
エ 産業遺産に学ぶ挑戦心 2015年7月8日5時20分 中高生新聞 読売新聞(YOMIURI ONLINE) ジュニアプレス ジュニア探検隊 http://www.yomiuri.co.jp/teen/junior/tanken/20150703-OYT8T50074.html?cx_thumbnail=04&from=ytop_os_tmb (2015年7月8日アクセス)
オ サミット＝主要国首脳会議」の開催地、志摩市に決定「伊勢志摩サミット」 伊勢志摩経済新聞 2015年6月5日 http://iseshima.keizai.biz/headline/2335/ (2015年7月8日アクセス)
カ 伊勢志摩サミット：閣僚8人会合発表 農相は新潟市で 2015年7月3日11時32分 毎日新聞 (最終更新 7月3日13時52分) http://mainichi.jp/select/news/20150703k0000e010225000c.html (2015年7月8日アクセス)

(2) 調査の方法

被験者の学生たちは、読者想定法についての講義を聞いた後、A・B2種類の新聞記事を読み、班で

どちらかを選択した。想定する読者を10人以上リストアップし、その中から班員数の読者を選択した。1名の学生が1人の読者を担当し、それぞれの想定する読者の反応をワークシートに書いた後、班内でその読者反応を話し合った。最後に考えたこと・感じたことなどを振り返りとして書いた。

学生班は、4名を基本としたが、人数の関係で5名班が2つできた。Aの記事を選択した班は6つ、Bの記事を選択した班は2つであった。得られたデータは、①想定した読者のリスト(班で1枚を作成)、②自分の想定読者の似顔絵プロフィール及び読者反応を書き込んだワークシート、③班で想定読者のプロフィールと反応を発表し、話し合った後に書いた振り返り、④想定する読者のリストアップ、自分の担当する想定読者の選択、読者反応の書き込み、発表及び交流、その後の自由記述の様子を撮影したビデオ(1つの班のみ)である。

4. 調査の結果

得られたデータのうち、想定読者のリスト、プロフィールと読者反応、振り返りにはどのようなことが書かれていたか、ここに記述する。記述の都合上、Aの記事を選択した班を1～6班、Bの記事を選択した班を7～8班とする。

(1) 読者想定

班ごとに読者を想定し、リストを作成した。①に示された各班のリストは表2のとおりである。丸印が、リスト作成後に選択された想定読者である。

表2 想定した読者のリスト(班ごと)

<p>1班</p> <ul style="list-style-type: none"> ○嫌韓の人 22才男性 学生 ○静岡在住 86才女性 家族 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県在住 50代女性 教員 ・静岡在住韓国人 親日韓国人 30才男性 ・反日 韓国在住 ・日本留学 韓国人学生 ○静岡観光センター就労の人 <ul style="list-style-type: none"> ・反射炉で働いていた日本人 or 子孫 ○反射炉で働いていた韓国人 or 子孫 	<p>2班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区内にすむ小学生 ○祖父が強制徴用に関わっていた韓国人中学生 <ul style="list-style-type: none"> ・祖父が強制徴用に関わっていた日本人 ・伊豆に来た観光客 ○登録委員の人(ドイツ人) ○静岡のパン屋 ○建築家 <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の報道記者 ・韓国外務第2次官 ・反日の人 ・反韓の人
<p>3班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人 ○韓国人(親日派・嫌日派) ・ドイツ人(世界遺産委員) ・世界遺産マニア ・福岡を含む8県の県民 ○サラリーマン ○社会科の教員 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞社の人 ・歴史マニア ○別の記事を見ようと思ったがたまたま目に入った人 <ul style="list-style-type: none"> ・他で情報を得た人 	<p>4班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産委員会に人 ・韓国在住の韓国人 ・在日韓国人 ・日本在住の日本人 ・韓国に在住の日本人 ○登録される産業遺産があるところに住む人 <ul style="list-style-type: none"> ・サラリーマン ・主婦 ○子ども ○韓国が嫌いな人 ○韓国が好きの人 <ul style="list-style-type: none"> ・戦争体験のある人 ・旅行が好きの人 ・ジャーナリスト ・大学生 ・歴史・考古学者 ・徴兵(徴用)されたことのある人の身内

<p>5班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県民 ○韓国人 ・産業に携わる人 ○高校生 ・県知事 or 市長 ○社会科教師 ・政治家 ・ユネスコ関係者 ・ヨーロッパに住む人 ○関係者（管理人） 	<p>6班</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在日韓国人 ○大正時代のおばあさん ・被害者の子孫 ○頭いい高校生 ・韮山反射炉の世界遺産登録を支援する会の人 ○観光ガイドの人 ○留学生（韓国人） ・アメリカ人記者 ・世界遺産委員会の人
<p>7班</p> <ul style="list-style-type: none"> ○志摩市長 ○映画祭を見にきた外国人 ・志摩市民（老人） ○賢島大学の生徒 ・志摩市民（子ども） ・新潟市民 ○軽井沢町民 	<p>8班</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民（おじいさん、おばあさん） ・県民 ・政治家 ・映画関係者 ○映画をみにきた外国人 ○学生 ・経営者 ・ジャーナリスト ○県外の市民の人 ○市長 ・警備

(2) 想定読者の読者反応

リスト上に示されていた立場について、担当する被験者である学生が、氏名やプロフィールを書き加えた。また、この記事の段落ごとに、読者反応を書いていった。ここでは、例として、2班の読者反応を挙げる（表3）。

表3 想定読者のプロフィールと読者反応（2班の場合）

立場	祖父が強制徴用に関わっていた韓国人中学生	登録委員の人（ドイツ人）	静岡のパン屋	建築家
氏名	イ・ホジェ(Lee Hoje)	ゲオルグ・シュタイナー	中澤永太	大田建造
プロフィール	14歳 男性 祖父が伊豆の反射炉で働いていた。日本のアニメ好き。日本と韓国の歴史に興味がある。歴史にはあまりくわしくない。数学が好き。野球部、キャッチャー。	60歳 世界遺産委員会議長（ドイツ人） ウイナー大好き、妻子持ち。スムーズに審議が進むことを求める。	42歳 パン屋の長男として生まれ、22歳に製パン学校卒業後、家を手伝う。父を尊敬しつつもそのパンには古さを感じている。たびたび新メニューを考える意欲を見せる。安い街場のパン屋のため単価を上げることができず、安い原料でいかにおいしいものを作るかに腐心する。同い歳の妻と、遅くにさずかった7歳の娘がおり、彼らを溺愛している。家はパン屋から200m程離れた所にあり、かよっている。妻と娘に苦勞させたくない思いから、様々な挑戦をしている。働き盛り。パンできたえた頑丈な体つき。	工学部の大学1年生。群馬県出身。富岡製糸場に出入りし、機械の仕組みや歴史に興味を持つ幼少期を送っている。海外の技術を輸入し発展してきた明治期の建造物や機械類を研究している。

表題と段落1	日本の産業革命が世界遺産になるのか……。この記事なら短くてよめそう。なんで対立しているんだらう？そういえば歴史では日本のこともいろいろやったなあ。23つてずいぶん多いな、韓国には世界遺産って何があったっけ。	韓国と対立し「明治産業遺産」審議5日に延期 今日3時の審議では、登録可否を決定できるというが……。もうこんな時間だし、早くニュースを読んで審議に備えて寝よう。	明治日本の産業革命遺産と言えばこの近くに反射炉があるが、あれもそうかな。そういえばこの前登録運動をやっていたような。登録されたら観光客が増えるな。	お、明治の産業か。行きたいな。登録延期でもいいや。有名になって混むとゆっくり見れないし。8県23資産って結構な量だな。夏休みに効率よく回れるようにしよう。
段落2	韓国の委員会？ 一致しなかった意見で何だらう？1日延期しただけで決まるのかなあ。	日韓両国の対立を会議に持ち込むのはやめてほしいなあ。先送りの判断は苦しい決断だった。	ん？ 韓国？ 何が関係しているんだ？ 反日というだけで登録を阻止しようとはさすがにしないだろうし。	あれ、なんかコレ、国際問題な感じ？
段落3	強制徴用って聞いたことがあるぞ。日本が韓国に対してひどいことをしていたと習ったな。関係していたことを訴えるのに、なぜ日本反発しているんだらう？ 誠意ある措置って何だらう？	韓国側の主張も分かるが全面的に肯定すると日本側の反発は避けられない。両者納得する形で可否を決定しなければ。	強制徴用か。確か近くにある反射炉もそんな話があったな。うーん、そうすると登録は難しいか？ いや、ここを外してという事にもなり得る。そうしたら観光客ねらいは外れかな。誠意ある措置な一、一介のパン屋に何ができるだろうか。というか、強制徴用を認めることに反発したのか？ いいかげん古いな。	なるほど。労働者の実態や環境も気になるっちゃなるけど、俺は機械の数値とかを展示してくれる方がありがたいんだけどな。展示内容が変に偏らなきゃいいけど。
段落4	どんな歴史でも遺産には変わらないんじゃないか。じいちゃんに話を聞きたいな。事務レベルってどういう意味？韓国が賛成すれば登録ってことかな？ なんだかよくわからないなあ。	「世界遺産委員会というのはあらゆることが起こる」と日本の岩本内閣官房参事官は述べているが、これ以上調整が難航するのはかんべんしてほしい。	双方が協力っていうが、古傷をつつき合ってもどうしようもないだろう。とっとと認めてくれれば世界遺産もスムーズに登録されるんじゃないのか。政治家って考えが古いのか頭が固いのか。全く親父みたいだ。登録してくれば観光客がふえて万々歳なんだが。	細かいことも気にして調整しなきゃいけないって、世界遺産登録も大変だな。富岡もそうだったのかな。また実家に帰ったら見に行ってみるか。

同じワークシート（資料1）を利用しているが、記述量にはかなりの差があることが分かる。以上のように、立場によって、同じ段落（すなわち同じ文章）を読んでいても、反応は全く変わってくる。立場としては、韓国—日本という対立構造やドイツという第三者の立場が含まれているが、年齢やそれぞれの社会的な役割の設定によって、反応の仕方は様々になってきていることが分かる。

(3) 振り返り

34名の学生に、「読者想定法をやってみての感想」という言い方で振り返りを書かせた。班や想定読者の立場にかかわらず、共通する内容が見られた。項目に分けて丸印を伏し、それぞれの項目を表すいくつかの事例（振り返り例）を示す。

○多様な読み方を体験できた。

・他の人の発表を聞いて、自分の経験では発想しなかったような意見もあり、新しい発見につながった。1人1人が異なる性質の人物を設定することでより多くの視点から記事を見通すことができ、見方が深まった。

・グループの他の人の意見を聞いて、みんなその人になりきって考えていて、すごいなとも思ったし、様々な考え方があって、発表しあっていて楽しかった。

・私たちのグループは、市民、県外の人、映画祭に訪れた外国人、学生、市長という5つの立場から維持を読むと活動をしたわけだが、それぞれが自分の役割にきちんと成りきっていたからこそ、同じニュー

スでも様々な着眼点から記事を読むことができたし、同じ記事から感じることは、それぞれの立場によって違うんだということをはだで感じるができる活動だった。

・想定した立場によって、記事に対する意見や、そもそもの着眼点が異なっていておもしろかった。私自身なら絶対しない読みがいくつも出てきた。このように想像することは、情報の受け止め方の理解や発信する際に気をつけるべきことについて、考えを巡らせるために役に立つことだと感じた。情報は発信者の意図どおりに伝わるとは限らないそんな当たり前のことを実感した。

○想定読者だと自分よりも意見交流がしやすい。

・また、今回の活動では、他己紹介のような形式になるというのは、先述のとおりであるがその他己紹介のようなやり方によって、意見交換が通常の意見交換よりも、やりやすかったのではないかと感じた。自分の意見を他者に伝えるには、エネルギーが必要だが、自分が創造したキャラクターに意見を言わせる、もとい、創造したキャラクターに「しゃべらせる」という行為が、より、スムーズに、自分の意見を言わせているのではないかなと、考えた。

○自分が想定した読者になりきるのが難しかった。

・今日、日韓の対立をめぐる記事を読んで、韓国人の男性を想定したが、経験のないことへの想像は難しく感じた。

・(他人)の気持ちになるのは、難しかった。私は市長を担当したが、志摩市をアピールすることしか頭になく、本物の市長さんだったら、もっと深いことも考えるだろうなと思った。また、市長さんは身近に感じられなくて、未知の世界だったため、あまり想像が浮かばなかった。

・自分が想定できる範囲や想定したときの知識には限界があると感じた。

○身近でない話題や知識がない場合は深く考えられない。もっと知る必要がある。

・さらに、ア(反射炉)の世界遺産について、少し疑問をもてたし反射炉がどういった存在なのいかももっと知る必要があると感じた。

・サミットはまだ身近に考えられるものではなかったので、深く考えることができなかった。もっと身近で考えやすいものを扱って、同じことをやってみたいと思う。

○批判的な読みができた。

・私は志摩市民の立場に立って考えてみたが、サミットや映画祭うんぬんかんぬんよりも安全面の方が気にかかるように感じた。サミットは国家間の問題だし、映画祭やコミュニティーカレッジも当事者の問題で、一番市民として気にかかり、直接関係するのは志摩が目目され、世界中から人々が訪れるようになることによって起こる安全対策問題だと思った。なぜ防災面に関して大丈夫だと思えるのか、もっと明白な根拠を示してほしい。

5. 考察

(1) 読者想定

今回用意したのは、いずれも利害の対立する関係を扱った新聞記事であった。そのことを反映して、どの班の読者想定も、対立する関係(日本—韓国)(志摩—新潟市民・軽井沢町民)を挙げていることが分かった。しかし、その対立する関係でも、さらに細かい分類を行っている。例えば、韓国といっても、在日韓国人と言う言い方もあれば、韓国が好き(日本)人か嫌いな人かなどの想定である。これに関連して、リストアップの中に心情を表す言葉を入れている場合とそうでない場合があった。いずれの班も、対立する関係のみならず、第三者的立場の人(ドイツ人など)を想定していた。これらから考察するに、読者想定法は二者の対立関係だけでなく、多様で複雑な立場を想定することができ、その立場から多様に読むことができる方法だと言える。

(2) 読者反応

読者反応は、考えを表す吹き出し(thinking bubble)の中に入れていくという手法を用いた。このために、いわゆる初発の感想にはない、細かく素朴な読者反応を記入させることができた。

そして、同じ段落を読んでいるのに、立場によってこんなにも反応すること(読みながら考えること)

は異なるのだということを、生徒役の学生にわかりやすい形で示すことができた。

本稿では、これを一覧表の形で示したが、調査中には、学生が自分のワークシートに書いたことを読み上げる形で、交流した。交流のさせ方を、ワークシートを回して黙読させるか、今回行ったように読み上げさせた方がよいかは、今回の調査では明らかにできなかった。また、読み上げた後の話し合いについても、ビデオを見る限り、互いに質問を出すようにはできなかったため、今後検討する必要がある。

(3) 振り返り

読者想定法がねらっている読者の立場によって読み方が異なり、多様な読み方を体験するということは、十分に行えそうだという見通しを得ることができた。また、一人の読者として自分の立場で読むことに比べ、交流が行いやすいと感じた学生も複数いたことが確認できた。一方で、話題の種類によって、知識の有無によって、読者想定が難しいとする振り返りもあり、どのような話題のどのような知識を含んだテキストがこの指導法の目的の実現に適しているか、さらに検討する必要がある。批判的な読みについては、それが行きやすいことはある程度把握できた。しかし、批判的な読みがどのような場合にどのように起こるのかを児童・生徒に示すためには、読者反応を書いた後の話し合いのさせ方の工夫などを考え、読者想定法をさらに精緻化していく必要もとらえられた。

6. まとめと今後の課題

本研究では、読者想定法という読書指導の方法を開発するために調査を行った。読者想定法では、対立する立場について書かれている新聞記事を扱った場合でも、対立する立場だけでなく第三者の立場やさらに細かい想定で多様な読み方ができ、それを交流させることで多様な読み方を体験できることが明らかになった。一方で、読者を想定する際にも、想定した読者で反応を持つ場合にも、既知知識の量や質が大きな制約を与えることが明らかになった。学習者にとっては、批判的な読みが行いやすいこと、自分の知識不足の実感から多読につながりやすいことも、振り返りの中からもとらえることができた。したがって、読者想定法は万能ではないにせよ、ノンフィクションの読書指導の方法として一定の形が整えられそうであるという結果が得られたと言える。

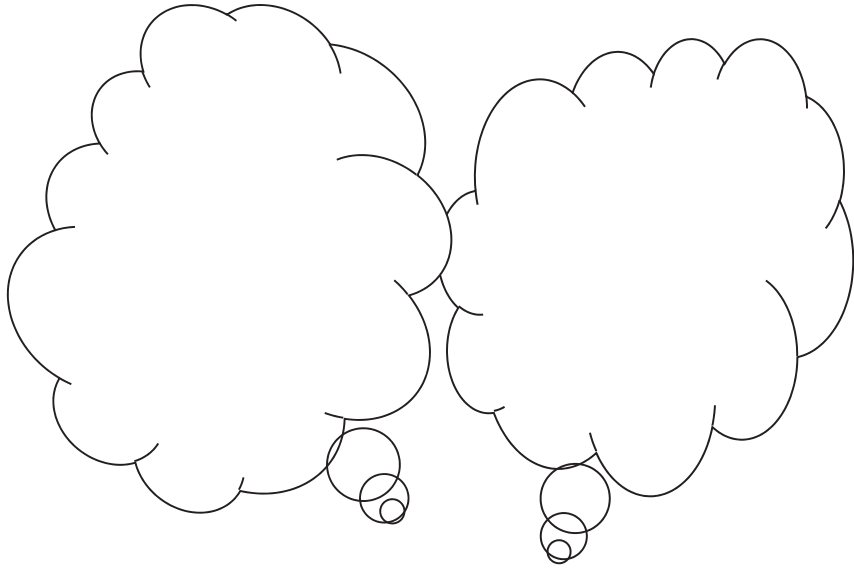
今後の課題は、読者想定法の精緻化のために、他のノンフィクションの読書材を扱っても、読者想定法が本調査で得られたのと同じような読書指導の効果をえられるかどうかを調査することである。ジャンルやメディアなどによって、想定する読者やその読者反応はどのような影響を受けるか、また、それによって読者想定法の手法や手順等に修正が必要かを検討していきたい。

文献

- 足立幸子 (2015) 「想定する読者の読者反応によるノンフィクションを読むことの指導 —Jean Anne Clydeらの吹き出し法 (subtexting) を手がかりとして—」『新潟大学教育学部研究紀要』第7巻第2号 人文・社会科学編, 195 ~ 205頁
- Clyde, J. A., Barber S. Z., Hogue, S. L. and Wasz, L. L. (2006). *Breakthrough to meaning: Helping your kids become better readers, writers, and thinkers*. Portsmouth, NH: Heinemann.
- 倉澤栄吉・青少年国語研究会 (1972) 『筆者想定法の理論と実践』 共文社
- Sarto, M. M. (1984). *La animación a la lectura para hacer al niño lector*. Ediciones SM. モンセラット・サルト, 佐藤美智代・青柳啓子訳 (1997). 『読書で遊ぼうアニメーション—本が大好きになる25のゲーム』 柏書房
- Sarto, M. (1998). *Animación a la lectura con nuevas estrategias*. Ediciones SM. マリア・モンセラット・サルト, 宇野和美訳 (2001). 『読書へのアニメーション—75の作戦—』 柏書房
- Tierney, R. J. and Readence, J. E. (2005). *Reading strategies and practices: A compendium. 6th ed.* Boston, MA: Allyn and Bacon.
- Tompkins, G. E. (2009). *50 literacy strategies: step by step. 3rd ed.* Boston, MA: Allyn and Bacon.
- Wood, K. D. and Harmon, J. M. (2001). *Strategies for integrating reading & writing in middle and high school*. Westerville, OH: National Middle School Association.

資料1 調査で使したワークシート

日
月
年
提出日
) 氏名 (



読者想定法ワークシート
想定した読者
在籍番号 (

氏名：
年齢：
プロフィール：

